パトロールニュース

―日本スキーパトロール協議会会報 ―　第73号

写真は第二会場：新潟県胎内スキー場

写真は第一会場：北海道ルスツリゾート

第73号の記事

●2017年度全国安全対策委員長会議
●56期 公認スキーパトロール検定会
●我等の仲間「猪苗代リゾートスキー場」
●雪崩対策作業について
●第46回JSPA総会案内
●事務局よりお知らせ

第73号　2017年6月01日発行　発行 日本スキーパトロール協議会　発行責任者 一戸繁輝
広報担当　〒063-0001 北海道札幌市西区山の手1条6丁目3-6　TEL 080-2014-3339　FAX 011-621-1328 富樫美昭
日本スキーパトロール協議会 http://jspa-net.jp/

全国安全対策委員長会議

2017 年 3 月 25 日（土）福島県・ヴィライナワシロにて全国安全対策委員長会議が開催されました。

出席者は SAJ 教育本部から五十嵐憲雄副本部長・秋元洋一安全対策委員会委員長・富樫泰一安全対策委員会副委員長・鈴木恵太安全対策委員会副委員長・JSPA より一戸繁輝会長・保坂淳司事務局長そして加盟団体安全対策委員長または代理人でした。

開会宣言に始まり、

(1) 第 20 回 FIPS 総会について
(2) 2017 年度安全対策部事業報告
(3) 新教程安全編正誤表について
(4) スキーパトロール研修テーマについて
(5) 加盟団体報告
(6) 日本スキーパトロール協議会報告

の順で進行され、閉会宣言で終わりました。

ここでは加盟団体報告を掲載しますが各県・道連の行事や SAJ の検定会・講習会に積極的に派遣している報告がなされていたので、ここでは省略して、その他の項目を掲載しました。

掲載にあたり SAJ 安全対策部ホームページより抜粋しております。詳細は SAJ 安全対策部ホームページを参照してください。

【北海道スキー連盟】

年々AED の設置状況も増えていますし、ヘルメットの着用の方が増えているのが主な点です。第 1 回ジュニアの全日本技術選大会をルスツスキー場でやっております。北海道の一番悩みは海外からのスキーヤーが非常に増えていて、特にニセコ地区は日本人が入れないような状況です。FIS10 ルールの外国語版を作って貼りだすとか、スノースポーツ基準の外国版を用意するとか、管理区域外に入ってきてなかなか戻ってこないことが頻繁にあります。北海道安全対策部としては、課題として検討事案に挙がっております。

【青森県スキー連盟】

県連や JSPA の行事、事業を元にポスターなのでヘルメットの有効性を訴えております。スキー指導員研修会、春山訓練などでヘルメットを着用して、地元スキー場でのパトロール活動においてヘルメット着用をして有効性を訴えていくということで、徐々に着用が定着しつつあるようです。青森県では今年 4 月 2 週目八甲田において春山訓練を実施しています。春山訓練は全日本の研修会にもしていますので、規定人数だけになりますけど、まだ全日本の研修を受けていない方おりましたら毎年実施しております。いつでも受け付けておりますので参加して頂けたらと思います。

【宮城県スキー連盟】
スキーパトロールの技術競技大会という事で合宿を行いました。その結果素晴らしい成績を納めましたが優勝には至りませんでした。種目としては三角巾が 3 位、レース第 2 位という事で優勝するつもりで取りにいったのですが惜しくも第 2 位になってしまいました。

【秋田県スキー連盟】
田沢湖スキー場にて参加 31 名で加盟団体主管のスキーパトロール研修会を行いました。スノーボードの指導員の方々とスノースポーツの安全に関して、意見交換を行い、スノーボードで肩とか脱臼する人が多いという事で三角巾を使って腕の吊り方など一緒にやりました。今後の経営としてはパトロールの資格を持っていてもなかなか現場に出ていない人はスノーモービル等乗る機会がないという事でスノーモービル等の安全講習などを行いたいと思っています。

【山形県スキー連盟】
県連スキーパトロール隊長会議といたしまして 12 月 10 日から 11 日、県内スキー場を対象としまして各スキー場の問題や課題を共有し活動の糧になるよう毎年行っております。

【福島県スキー連盟】
スキー場代表者会議を毎年開いております。これは各スキー場のパトロール隊から隊長ないしパトロール隊員、またはスキー場の代表者に来て頂いてシーズンの事業計画等説明してご協力をお願いするということです。

【茨城県スキー連盟】
茨城県連では行われている行事はすべてホームページに上げさせて頂いていて県内、また多くの方に見て頂ける様に公開させて頂いております。県連ではオリジナルの救急パックというものを作っておりまして一袋 300 円で三角巾や緊急で使えそうな絆創膏などをセットにして受検者や指導者の方に買って頂き、必ず背中に持って頂くような指導をさせて頂いております。

【神奈川県スキー連盟】
雪なし県として現場における指導者、事故防止についての意識付けを積極的に行う。

【富山県スキー連盟】
11 月末に各スキー場のパトロールの情報交換会を行いまして色々な課題について話し合いをしました。4 年後富山県で国体があるという事で大会に向けて安全対策部として体制をもう一度しっかりと見直して、道具の更新とかも予算のない中でやっていきたいと思っていますのでまた色々教えて頂けたらと思います。

【石川県スキー連盟】
12 月 7 日にドクターパトロールによる講演会，整形科の先生を呼びまして骨折、打撲、捻挫などの後の後遺症などの講演をして頂きました。細かい事業報告等は FACEBOOK 石川県スキー連盟安全対策部で出ていますので皆さん「いいね！」を押してください。

【福井県スキー連盟】
最近中国、インドネシア、フィリピン、欧米の方たちもスキーに来ておりますので、今後こんな事故が増えるのかと思いました。スキー場の方はコース外を滑らないように色々な対策をしておりますがなかなか減らないのが現状です。

【山梨県スキー連盟】
山梨県はパトロール隊員が非常に少なく、各スキー場あまりないのですがスキー場の中で隊員を確保すること自体が難しい状況で活動自体、全体としては出来ないのが現状です。

【岐阜県スキー連盟】
県スキー連盟の会報は毎年 10 月末に公認パトロール、県のパトロールの会員の皆さんに配布しております。現在 367 名の隊員に配っております。

【愛知県スキー連盟】
1 年位前に競技部からの要請で、クロスカントリー競技中の心臓発作に備えて、県連が AED を 2 台レンタルで導入しました。せっかく導入しても役員が AED を使えないと話にならないので講習会をやりましたが受講者の意識が低く、競技は競技だけに没頭し、教育部にしてもただ検定に受かればいいという感じでした。一番大切なのは安全だと思うのですが、その辺の認識が若干低いと感じています。AED 講習は消防始め色々な所で受けられるけど、実際必要なときに使えないのでは意味がないので、AED 講習の受講をすすめていこうかと思っています。今年 2 月 18 日に不届きな輩が見えて辺鄙なスキー場なので小さい子供を連

れてきて、下の斜面の雪の所で遊んでいるのですが斜面は傾斜があるのでそこで子供が遊んでいる所に上からショートスキーが流れてきて女の子が負傷し、親が救急車呼んでほしいというので呼んでも 1 時間位掛かるので取り敢えず母親に三角巾を押さえてもらいタオルで拭いたら大分血が止まり落ち着いて救急車が到着して乗せていったのですが、その時に場内放送でスキーが上から流れてきたので、流した人を呼び掛けたのですが申し出はありませんでした。さらに同じスキーが同じ状況でもう一度流れてきて、明らかにスキー場に捨てていった人がいるという事です。そんな事あってはいけないと思い犯人捜しをしたのですが見つかりませんでした。上に駐車場がありまして物を捨てられたりしている状況にあったで、これからはその辺も注意しながらスキー場管理したいと思います。

【滋賀県スキー連盟】

市の消防とタイアップして毎年やっており、消防のロープの結び方，建屋からの降り方，色々講習させて頂きその中で消防の方からスキー場での搬送をした事がないので，後日改めて一緒に講習会をして頂きたいと申し入れがありました。ドクターパトロールの有資格者の傷害調査の集計は現在進行中ですのでもうそろそろ結果が出ると思います。

【兵庫県スキー連盟】

スキーパトロール隊員のヘルメット着用を推進しております。

【鳥取県スキー連盟】

毎年行っておりますがシーズン当初に雪上でのバックボードで搬送訓練を行うのですが、今年度 1 月の上旬雪が非常に少なくて営業が出来ない状況でしたので、訓練が中止になりました。

【長野県スキー連盟】

まずはお詫びですが，直線 20 キロ辺りにヘリコプターが落ちてしまい、中に乗っていた消防隊員・航空隊員の中には、うちのスキー場へも来てくれた人もいたので悲しい事が起きました。はっきりした原因は皆さんの耳にはまだ入っていないと思いますが、皆さんが感じていられるような原因だと思います。なかなかいつもよりも大勢乗っていた所に何かいつもと違う事が起きた事ではないかと専門の方も言っております。それを救助しに行った長野県警のヘリも 3 人で行ったのですが 2 人は後輩でパトロールとヘリコプターの防災の方も警察の方も長野県の場合知っている者がいるのでとても心配している状態です。もう一つお詫びですが戸狩スキー場で今年スキーカットをしていてパトロール 1 人を亡くしてしまいました。それも知り合いでした。スキーカットは 4 人で入ったのですが、詳しい内容は来年報告できると思います。色々なことがありました。報道されていない事もあります。ただ亡くなられた方がおりデリケートな問題でもあり、ここから何か発信されては困りますのでこの位にしておきます。怪我に関して，また安全に関して私どもが知らないというわけにはいきませんので分からないことはどんどん周りの方と色んな話をして頂いて自分の知識にして頂ければありがたいと思います。そんな風に私も今まで人の話も自分さもやったような事で皆さんに報告しておりますがそれもまた大切なことだと思います。ここで話す話は自分の話としてどんどん広めていってもらえばいい事だと思います。

【新潟県スキー連盟】

準指導員養成講習を参加される方にはボードを引いて体験してもらっています。ですから新潟で準指導員取って、指導員取って、デモになった人たちはボートも間違いなく引けます。パトロールに関しては今年新潟県で公認パトロールの検定会を行ったわけですが、5 名しか受検者が出ませんでした。県内のスキー場に聞いたら今実情は隊員の数が少なくて、なかなか検定会に皆を出すのは難しいという事です。ほかに意見が多かったのが、今まで何年もやってきて公パト持っている人達より自分達はうまい。知識はないけど技術はスキルはある。別に取る意味ないのでは、という言葉を結構聞きます。そこでそうではなく、こういう世界で皆さんと一緒に色んな情報交換する場がありますから是非取って下さいとお願いをして、なるべく取るようにお願いしています。今後どうすれば公パトを受ける受検者が増えるか皆さんで考えていきたいと思っています。

公認スキーパトロール検定会

56 期公認スキーパトロール検定会は 2017 年 2 月 17 日（金）～2 月 19 日（日）の 3 日間にわたり、第 1 会場は北海道・ルスツリゾートスキー場、第 2 会場は新潟県・胎内スキー場で開催されました。

今回は日本スキー教程の安全編が全面改訂になり、初めての検定会となりました。17 日の開会式後すぐに理論試験があり、18 日・19 日に搬送種目・基礎種目・ロープ操法・救急法の実技テストを行い、受検生は励ましあいながら、全員合格を目指しました。

69 名が受検し、新たに 61 名の公認スキーパトロールが誕生し、35 名の方が JSPA に入会されました。先輩 JSPA 会員の方の御指導、御鞭撻を宜しくお願い致します。

56 期公認スキーパトロール合格者名簿（○は会員を表します。敬称略）

入会	所属	氏　名
	北海道	稲村　宏美
	北海道	太田　祿乃
	北海道	今野　鋭一
	北海道	今野　貴之
○	北海道	佐藤　雅志
	北海道	髙橋　絵里子
	北海道	髙橋　泰範
	北海道	中村　聡
○	北海道	西久保　佳太
	北海道	野村　亮
	北海道	原　和豊
	北海道	薮下　昌也
	北海道	山下　智恵
	北海道	熊谷　英明
○	青森県	原田　富次男
○	青森県	山田　豊秀
○	岩手県	村山　裕孝
○	岩手県	下島　恒二
	宮城県	原田　彦
	秋田県	岩井　悠宇
	秋田県	佐藤　洋平

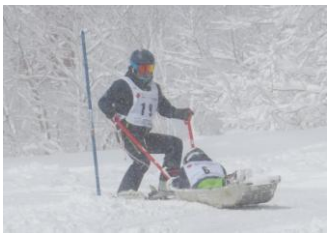
入会	所属	氏　名
	山形県	坂本　栄之
	山形県	笠原　尚悟
○	福島県	宗像　浩司
○	福島県	田代　孝一
○	福島県	新井　穣
○	福島県	岩崎　雅仁
	栃木県	福井　勝博
○	群馬県	原澤　悠記
	群馬県	星　武尊
○	群馬県	萩原　健一
○	埼玉県	近澤　好一
○	埼玉県	原田　芳則
○	埼玉県	野崎　浩司
○	東京都	矢島　寅雄
○	東京都	花井　忍
○	東京都	浦山　重樹
	神奈川県	菅野　克敏
	神奈川県	高田　七重
	神奈川県	野崎　幸浩
	神奈川県	岩切　俊憲

入会	所属	氏　名
	神奈川県	草山　真紀夫
○	新潟県	城前　英勇
○	新潟県	阿部　広太
	新潟県	齊藤　鷹介
	新潟県	髙野　耕一郎
○	新潟県	松永　幹生
○	新潟県	横井　湧
○	富山県	石倉　謙治
○	富山県	江崎　清隆
○	富山県	高桑　晴彦
○	石川県	松蔵　卓也
○	石川県	細田　和美
○	福井県	山田　和人
○	福井県	末永　聡史
○	長野県	村松　純
○	愛知県	桜井　翔多
○	滋賀県	杉浦　可奈
○	鳥取県	横松　秀信
○	岡山県	井戸　美治
○	徳島県	正木　慎一

JSPA ホームページ（http://jspa-net.jp/）では第1会場、第2会場の検定会の様子を写真（約400 枚）で見ることが出来ます。

写真で見る検定風景　第１会場

開会式



大回り搬送

真下搬送

片開きプルーク

ロープ操法

三角巾

スキーパトロール合格記

スキーパトロール合格までの体験記

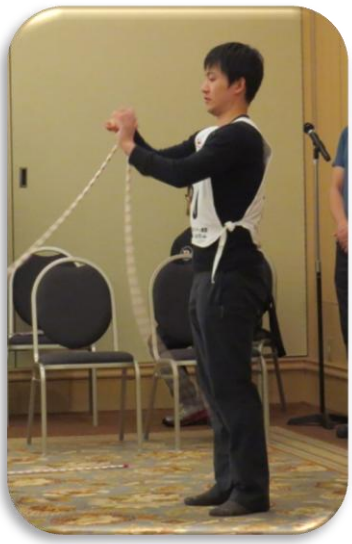
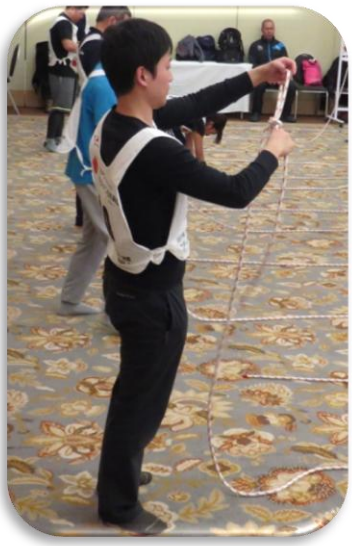
徳島県　正木　慎一

「パトロール検定を受けてみんか」職場の先輩のこの一言から私の受検生活が始まりました。

昨年の秋、先輩は会う度に検定受検を勧めてきました。私は５年間スキーをしていなかったこともあり、そのつど丁重にお断りしていました。ただ１度あの時を除いては…。あの時とは職場の飲み会でのことです。普段は近寄りがたい雰囲気のある先輩ですが、私の隣の席に陣取りお酒を勧めてきました。ついつい飲みすぎて機嫌が良くなったころに先輩は言いました「パトロール検定を受けてみんか」その時軽い気持ちで言いました「やりましょう」と。私の職業は消防士。男に二言はないのです。

そんなこんなで始まった受検生活。先輩は仕事が休みの度にスキーを教えてくれました。受検に必要なヘルメットも用意してくれました。実は今回２回目の受検で、去年は検定に合格することが出来ませんでした。私自身、スキー技術が合格レベルに達していない自覚がありましたのでそれほど落ち込んでいませんでした。しかし先輩の落ち込みようといえば目も当てられないほどでした。「これは来年も受検してリベンジするしかない」そう決意しました。

私のホームゲレンデは井川スキー場腕山。メインゲレンデの長さは４００メートルで徳島県唯一のとても小さなスキー場です。そのスキー場で出会ったスキーパトロールの方々やスキーヤーの先輩方も私の合格に向けていろいろサポートしてくれました。ポールを立ててくれたり患者役になったりと。最終的には応援のために北海道まで駆けつけてくれました。皆さんのおかげで今回パトロール検定に合格することができました。合格したとき先輩は泣いていました。受検生活で私にはたくさんのスキーヤー仲間ができました。それは私の財産です。

写真で見る検定風景　第2会場

開会式

雪上検定開始

真下搬送

真下搬送

片開きプルーク

フリー滑降

パラレルターン

三角巾

ロープ操法

スキーパトロール合格記

公認スキーパトロール受検記

宮城県スキー連盟
川崎スキークラブ
原田　彦

私は普段、アルペンスキーの指導者として活動しています。この競技は３人に１人が怪我をすると言われているほど怪我と隣り合わせであり、パトロールを取ろうと思ったきっかけも怪我を未然に防ぐ知識やノウハウと万が一の場合に対応が出来る能力を備えておきたかったことが理由です。

近年はスキーのジャンルが多様化していて、スキーだけでも競技スキー、基礎スキー、フリースタイル、オンピステ、オフピステなど様々。そこに携わる指導者やエキスパートがもっと安全に対する意識を変えなければ、怪我や事故は減らないと感じています。特にアルペンは平均速度が高く、基礎技術が備わっていないレーサーが一般ゲレンデを暴走するシーンをよく目にします。あれでは、周囲に脅威を与えるだけで我々は絶対に応援される立場にはなれないと強く感じています。こういった面も含め、より多くのスキーヤーが隔たりなく楽しくゲレンデを共有出来るスペースにする為にもより多くの指導者に安全に対する認識をより強く持ってもらいたいと思いました。

実際に今回受検して、今まで知っているようで知らなかったことがほとんどで、知識から技術まで全てが役に立つことばかりでした。ただ実際に自然を相手にする現場では、より多くの経験と知識、技術が求められると想像いたします。これに甘んじることなく、引き続き自分の能力を磨き続けたいと思います。

検定役員の方々、スキー場関係者の方々、３日間本当にありがとうございました。

我等の仲間

猪苗代リゾートスキー場
パトロール隊活動

隊長　遠藤秀明

昭和 60 年、猪苗代町と京浜急行との第３セクターとしてスタートして早 28 年、猪苗代リゾートスキー場は様々な時代の流れの中で表情を変えながら、現在に至ります。

スキー場は、リフト３基、ゴンドラ１基の中規模のスキー場です。

私で４代目の隊長になり、5 シーズンを過ぎました。

毎年スキー場も表情を変え、近年では過去に例がない暖冬や季節外れの大雪などパトロール活動においても判断に迷うことも多くなりました。また、趣向の多様化でバックカントリーを楽しむお客様が年々増加するとともに、ルールを守れない無秩序なお客様も増えてきました。当スキー場はコース外滑走を一切認めていないので、対象者には厳正な態度で対応しております。我々も時折山頂に登り、山の状態、雪質チェックを巡回の合間に行っております。

そして、パトロールたる者そのスキー場で一番であるが私のモットーで、隊員にも様々な技術を日々研究し、お客様から憧れる存在になりなさい、目指しなさいと指導しております。スキー技術ももちろん、搬送技術、ネットや規制等の設置技術、危険予知能力など様々な技術を必要とする Mr.パトロールを養成しパトロールの価値や必要性をアピールしております。

その他にスキー場各所に絶景スポットがあり、そこにラブチェアーという名の椅子を設置し家族、恋人達の休憩、憩の場として提供しています。ゲレンデを一番知るパトロールが提供する場所だからこそ価値があると思っております。

ぬくもりと怪我防止の行動は、積極的にお客様とリフト、ゴンドラに乗車して会話や情報収集し、その場で飴の無料配布をしています。会話をすることで、お客様のほしい情報や私達のほしい情報も共有でき、飴ちゃん効果で怪我防止に一役かっております。

またコースの変化も随時積雪チェックし圧雪隊に情報提供し、戦略的に効率よく圧雪をお願いしております。

まだまだ隊長としてやらなくてはならないことがたくさんありますが、日々のパトロール活動の中で鍛錬し邁進していきます。

ラブチェアー

急斜面不整地アキヤ訓練

雪庇排除

山頂巡回

福島県 猪苗代リゾートスキー場ゲレンデ

雪崩対策作業について

出川あずさ（日本雪崩ネットワーク）

1 はじめに

戸狩温泉スキー場での雪崩事故（2017 年 2 月 13 日）を受け、理事長・富樫泰一氏からの依頼で、記事の寄稿をしています。雪崩の安全対策については広範に渡るため、この原稿では、現場で作業する隊員の雪崩に係る理解を深めることに焦点を当てています。

2 雪崩現象

2.1 誘発のメカニズム

面発生乾雪表層雪崩は、弱層を構成する雪の結合が局所で破壊され、それが水平方向に伝播し、下層の支持力を失ったスラブが、その結合の弱い箇所で引張破壊を起こし、雪崩となって動き出します。これがコンマ数秒で進行することになります（図1）。

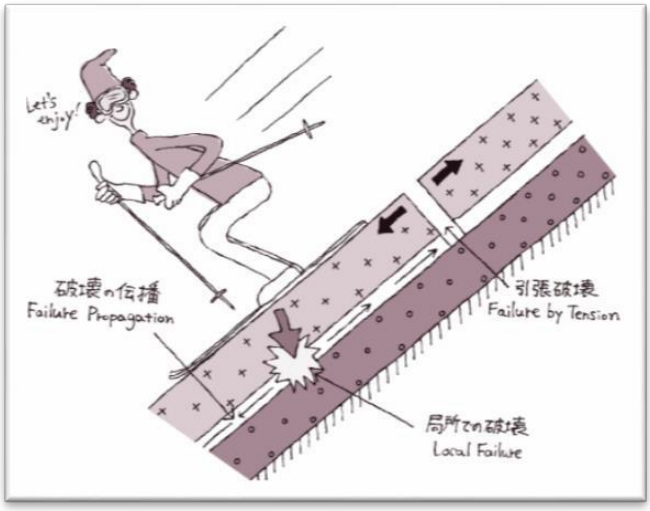


図１　誘発のメカニズム

誘発のしやすさは、スラブ・弱層・すべり面の組み合わせで大きく変わります。上載積雪がスラブを形成しないほど軟らかく、またすべり面も同様に軟らかい場合、結合力が弱い雪がその間に存在しても、なかなか人の刺激には反応しません。しかし、昇温や日射などの影響で上載積雪がスラブの傾向を持ち始めた途端、容易に人の刺激に反応し始めます。

一方、スラブが硬く厚い場合、人の刺激は弱層まで届きませんので誘発感度は下がります。しかし、もし、スラブの薄い箇所を刺激することで弱層が破壊され、雪崩が発生した場合、その規模は大きくなりえます。雪崩の発生にはスラブが切れる必要がありますので、硬いスラブの場合、その強い雪の結合力が原因となり、より遠くまで雪を引っ張る傾向があるからです。

さらに、弱層を構成する雪が、局所で破壊を起こした際、その破壊が遠くまで伝播しやすい雪であるか、という点も重要になります。局所で破壊が起きたとしても、それが水平方向に広がらないと雪崩は発生しないからです。

このようにスラブ・弱層・すべり面が、それぞれどのような特徴および組み合わせで存在しているのかを理解することが極めて大切です。

2.2 二種類の不安定性

雪崩を発生させうる不安定性には短時間で解消するものと、長く継続するものがあります。前者は「荒天の不安定性」と呼び、一般的に数時間から 4～5 日間で解消していきます。後者は「持続型の不安定性」と呼び、一週間以上、長ければ二ヶ月以上も人的な誘発が可能な状態が継続します。

この二種類の不安定性には、雪質が関係しており、前者は降雪結晶やこしまり雪、後者は温度勾配に起因する霜系の雪（こしもざらめ雪など）が一般的には多くなります。また、雲粒が付着していない粒径の大きな降雪結晶が厚みを持った層を形成しますと、通常の荒天の不安定性より、やや持続する傾向があります。

降雪の度、スキーカットで落とすという作業に携わるスキーパトロールにとって、通常接しているのは荒天の不安定性になります。一方、標高の高い山岳で活動するスキーガイドにとっては、形成の方位や標高にバラツキの出る持続型の不安定性が厄介な存在となりえます。

3 破断面データ

戸狩温泉スキー場での雪崩破断面データを簡単に説明しますと、日射と昇温で形成したざらめ雪(○)が十分に焼結したしまり雪（●）の上に載り、すべり面を形成、弱層は2月9日の低気圧通過時に降った降雪結晶の特徴が残るこしまり雪（／）となります（図 2)。

雪崩はスキーカットに入った3人目で発生しており、誘発感度はやや鈍いと言えますが、これは表層の軟らかい雪の下に、やや硬度の高い層（1F）が存在しているためです。また、このことが、隊員の事前想定より雪崩が大きくなった原因といえます。当該斜面は、以前は日々、管理をしていましたが､上部リフト休止に伴い、普段の管理はしていませんでした。

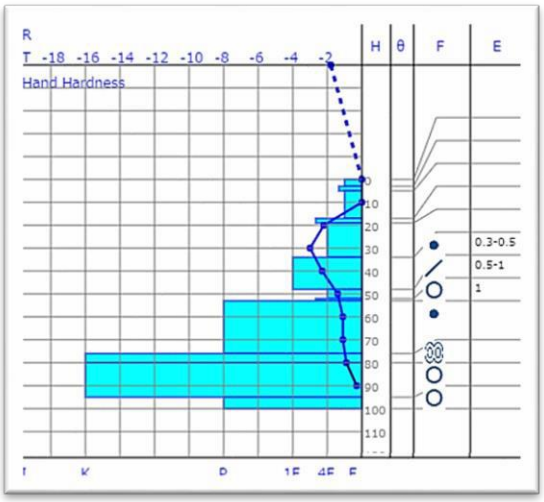


図 2　雪崩破断面データ

4 事前対策として重要なこと

管理区域の地図を作ること、発生させた雪崩の履歴（規模や特徴等）を記録すること、気象観察を行い潜在的な危険要素を持つ降雪等の記録を付けること、そして、それが積雪内に埋もれた場合、適時、積雪断面観察を行い、トラッキング（追跡）し続けることなど、雪崩安全対策に必要な基本事項の重要さが戸狩温泉スキー場での事故から理解できます。

広大な新雪エリアを持つ米国のスキー場の安全管理マニュアルには、積雪断面観察について以下の表現があります。

「雪崩業務で最も魅力のないものの一つであるが、最も意味を持つものになることが多い」

30 年以上も前に書かれたマニュアルですが、そこで指摘されていることは、今も変わらない事実です。特に、不定期で管理作業に入る斜面があるならば、積雪内に存在している不安定性の種類と、それに関連付けられる潜在的な発生規模や誘発感度を事前に見積もることが必要不可欠といえます。これらをせずスキーカットに入ることは、極めて危険な行為になります。

こうした積雪状態の適切な評価は、包括的かつ体系化された専門プログラムを受けることや、それを身につけるまでの継続的な訓練が必要です。応急処置向上のため、ファーストエイドの専門教育を受講するのと同じということです。

5 事後対策としての装備について

雪崩に関しては「絶対」という言葉はありませんので、そこに不確実性がある限り、事態が発生した際の準備として「装備」を持つことは前提です。日本に雪崩ビーコンが紹介されたのが 1991 年､1993 年には日本製のビーコンも発売になり（現在は休止)、90 年代終わりには各国のビーコンが購入可能となっていました。

そして現在、北米では埋没の可能性を低くする装備として、雪崩エアバッグの装着が安全管理作業を行う人においては、ほぼ標準化の方向に進んでいます。日本でも経営者がその重要性を理解し、対策が進んでほしいと思います。

附記

現地調査は、戸狩温泉スキー場様の全面的なご協力の下、行われました。深く感謝致します。

・調査速報

http://www.nadare.jp/news/170213togari-report/

・破断面データ

http://spin.nadare.jp/profiles/972

・イラスト：『雪崩リスク軽減の手引』より

JSPA 総会案内

第 46 回 JSPA 総会と観光の詳細が決まりましたのでお知らせします。
総会・特別講演・懇親会・二次会は滋賀県の琵琶湖グランドホテルにて開催します。
翌日の観光は天台宗総本山比叡山延暦寺に巡拝します。
皆様の参加をお待ちしております。

期日：2017 年 8 月 26 日（土）～27 日（日）
宿泊：琵琶湖グランドホテル
住所：滋賀県大津市雄琴 6-5-1
TEL 077-579-21111

総会日程

8 月 26 日（土）
10：00～12：00 理事会
13：00～14：30 総会受付
13：00～15：00 地区幹事会
15：00～16：00 総会
16：00～17：00 特別講演
講師：一ノ本達己（いちのもと　たつみ）
株式会社マックアース代表取締役 CEO
テーマ：『スキーリゾートについて』
18：00～20：00 懇親会
20：00～22：00 二次会

8 月 27 日（日）
07：00～ 朝食
09：00～12：30 比叡山延暦寺観光
12：30　ホテル解散予定

参加費
★前泊
大人 1 名：16,000 円
小学生高学年 1 名：11,000 円
小学生低学年 1 名： 9,000 円
2 名で 1 部屋使用：一部屋で 6,000 円追加
★26 日泊（懇親会費を含む）
大人 1 名：22,000 円
二次会費：3,000 円
小学生高学年 1 名：14,000 円
小学生低学年 1 名：11,000 円
2 名で 1 部屋使用：一部屋で 6,000 円追加
★懇親会のみ参加 1 名：7,000 円
★二次会のみ参加 1 名：3,000 円
★比叡山延暦寺観光料金
バス・巡拝料込
（昼食は含みません）　1 名：3,000 円
◎各地の地酒持ち込みを歓迎いたします。
不明点は事務局の保坂淳司まで連絡をお願い致します。（携帯 090-3230-2239）

総会振込用紙は総会専用のため JSPA 年会費の振り込みはご遠慮ください。

申込ハガキ締め切り：7 月 30 日（日）必着
参加費払込締め切り：7 月 30 日（日）必着

琵琶湖グランドホテル全景

琵琶湖から見る比叡山

事務局よりお知らせ　事務局 e-mail：info@jspa-net.jp

●JSPA 専用名刺注文サイトの見方

①JSPA ホームページの JSPA 専用名刺注文サイトへアクセスする。
[販売･刊行物]
↓
[JSPA 専用名刺注文サイト]
または，
右の QR コードから

②各必須項目を入力する。

型式(100 枚単位)

- 片面印刷（写真なし）1500 円
- 片面印刷（写真あり）1600 円
- 両面印刷（写真選択）2000 円

*両面印刷を選択した場合には，写真の有無を選択できます。

フォーマット選択

【フォント（文字）】

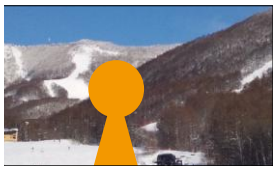
- 標準（明朝体）
- やわらかめ（柔ゴシック体）

【写真位置】

- 写真なし
- 背面ぼかし
- 丸抜き
- 四角抜き

③個人情報の必要事項を入力する。
JSPA 会員 NO.
お名前
住所など

【写真のアップロード】
顔写真の場合は背景の多いものをお送りください。



【連絡事項】欄
何かご依頼がある場合には，こちらの欄へ入力してください。

④［確認画面へ］をクリックし，最後に［送信］をクリックする。

事務局よりお知らせ　事務局 e-mail：info@jspa-net.jp

日本スキー教程安全編（20016 年 11 月 1 日第 1 刷発行）の正誤表

「SAJ 安全対策部ホームページ（2017 年 03 月 20 日現在）より許可を得て引用」

ページ	誤	正
012 p　右段15行	下腿の	下腿
013 p　図3キャプション		（N=1.117）の追加
046 p　右段03行	三角布	三角巾
046 p　図1中	「意識の確認」	「反応（意識）の確認」 「四肢麻痺・身体の機能障害の確認」 ボックス右の「なし」「あり」入れ替え ※2＝以降の「受傷者の･･･気道を確保する。」を削除
050p　右段17行	多く	多
054p　右段09行	腰痛など腰に痛みを持つ選手	腰痛を訴える選手
054p　右段27行	脊髄	脊椎
071p　右段10行	解放	開放
094p　右段26行	す	す。
096p　左段下から3行	精髄	脊髄
106p　写真3枚目のキャプション	ダブルフッシャーマンズノット double fisheman's knot	ダブルオーバーハンドノット double overhand knot
109p　左段12行	公走式	交走式
112p　右段		写真2と3を入れ替え
122p　左段20行	RISE処置	RICE処置
126p　図中	*1わからないといは	*1わからないときは

新終身会員の紹介

2016 年 8 月 8 日から 2017 年 5 月 1 日までに登録された方です。

2017 年 2 月 1 日
　青森県　山内　登　様
2017 年 2 月 1 日
　北海道　富樫　美昭　様
2017 年 5 月 1 日
　福島県　安田　信　様

寄付金の受領

寄付金を納め頂いた方々です。
今後の JSPA 活動に使用させていただきます。ありがとうございました。

2016 年 12 月 27 日
　東京都 11 期　平田　春雄　様（終身会員）
2017 年　1 月 11 日
　東京都 36 期　中澤　義昭　様（終身会員）
2017 年　1 月 16 日
　青森県　ドクターパトロール
　　川島　信二　様（終身会員）
2017 年　4 月 24 日
　兵庫県 22 期　大出　泰正　様（終身会員）

訃報

福沢　洋治さん（神奈川県 15 期　76 歳）
元常任理事
2017 年 1 月 4 日に、ご逝去されました。
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

訃報

深田　元司さん（石川県 35 期　55 歳）
2017 年 3 月 20 日に、ご逝去されました。
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。